

ホルムアルデヒド放散等級区分

F☆☆☆☆

居室内で無制限に使用できます

ロックハイパーリアクターコート無機

ROCK HYPER INORGANIC REACTORCOAT

ロックハイパーリアクターコート無機 / 無機ルーフ

無機と有機のW効果・超高耐候性・超低汚染性

弱溶剤2液型超低汚染リアルハイブリッド無機系塗料



ROCK PAINT

従来塗料とは一線を画したハイス
大切

『無機』がもつ
超耐久性・超低汚染性

『有機』がもつ
フレキシブル性(柔軟性)

2つの長所を掛け合

ロックハイパーリアクターコート

ペック性能を発揮
な建物を長期間守り続けます

▶▶ W 効果

わせた最高位グレード

無機シリーズが誕生しました

これまでの塗膜性能を 凌駕する超品質

超高耐久
外壁

20年~25年※

有機・無機の超耐久樹脂

ラジカル制御技術

超高耐久
屋根

18年~22年※

有機・無機の超耐久樹脂

ラジカル制御技術

超低汚染性

塗膜表層に緻密な親水性塗膜を形成
(セルフクリーニング効果)

強力な防藻・
防カビ剤を配合

フレキシブル性

硬く割れやすい無機の弱点を
有機の柔軟性でカバー
更に **弾性硬化剤** も設定

※長期間ひび割れの抑制を保証
するものではありません

超品質

※期待耐用年数は、次回塗り替え時期の目安としてであり、塗装する地域、立地条件、塗装面の方角によって異なります。

超高耐候性

無機物の耐紫外線力×有機物の柔軟性を理想的に配合し、紫外線吸収剤とラジカル(劣化因子)の発生抑制技術により従来の塗料を凌ぐ超高耐候性を実現

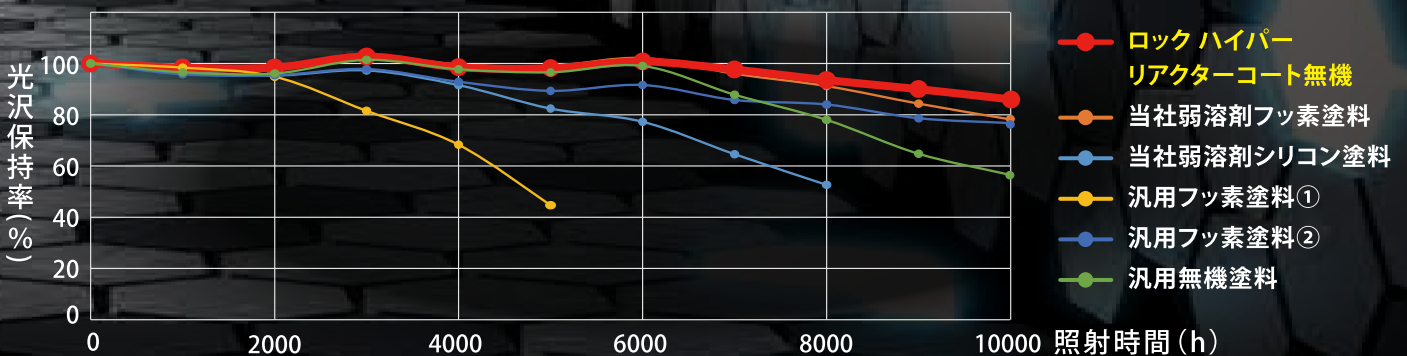
無機/有機のハイブリッド樹脂×ラジカル制御技術



特殊コーティングチタン×光安定剤(HALS)によるラジカルコントロールにより、ラジカル劣化を抑制

当社独自のリアルハイブリッド技術

促進耐候性試験結果 (キセノン照射時間 10,000h)



超低汚染性

セルフクリーニング機能

塗膜の表層に緻密な親水性塗膜を形成することで得られるセルフクリーニング効果で降雨時に汚れが洗い流されます



ロックハイパー
リアクターコート無機



一般塗料

一般水性1液塗料

ロックハイパー
リアクターコート無機

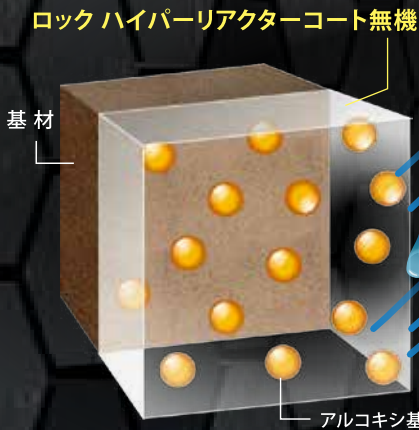
一般弱溶剤2液塗料



塗装直後

乾燥・塗膜形成中

超低汚染塗膜の完成

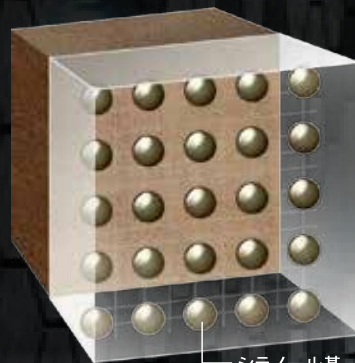


ロックハイパーリアクターコート無機

基材

アルコキシ基

塗料中のアルコキシ基が
空気中の水分と反応することで
加水分解されシラノール基を生成



シラノール基

シラノール基が塗膜表層に
緻密に配列される事により
超低汚染性能が付与される



シラノール層

セルフクリーニング

防藻・防カビ性能試験結果

水に溶けにくい強力な防藻・
防カビ剤により長期にわたり
美観を維持し続けます



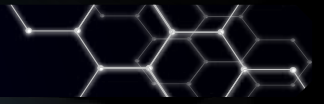
ロックハイパー
リアクターコート無機



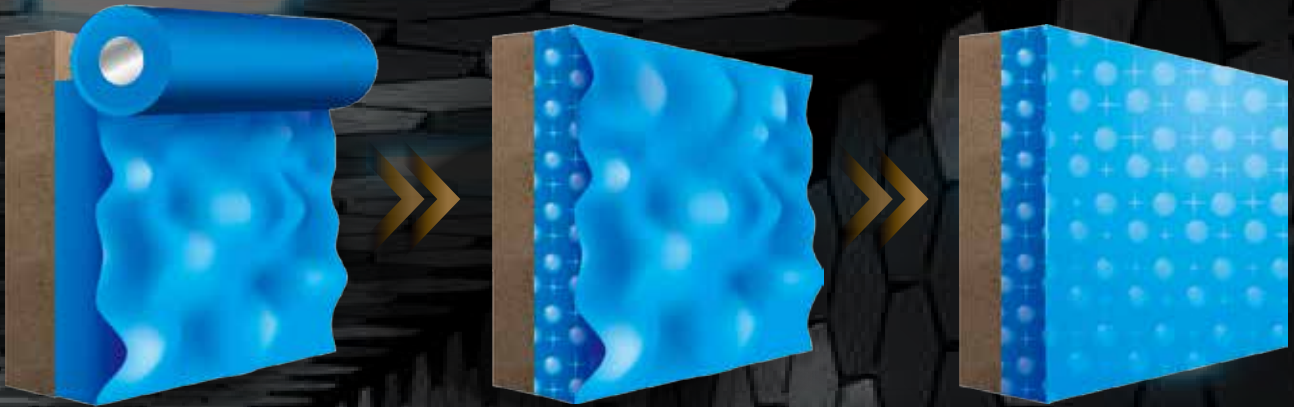
一般塗料

超美粧性

セルフレベリング機能



セルフレベリング機能により、均一な仕上がりを実現
超微粒化された樹脂により、従来には無い緻密な塗膜を形成します



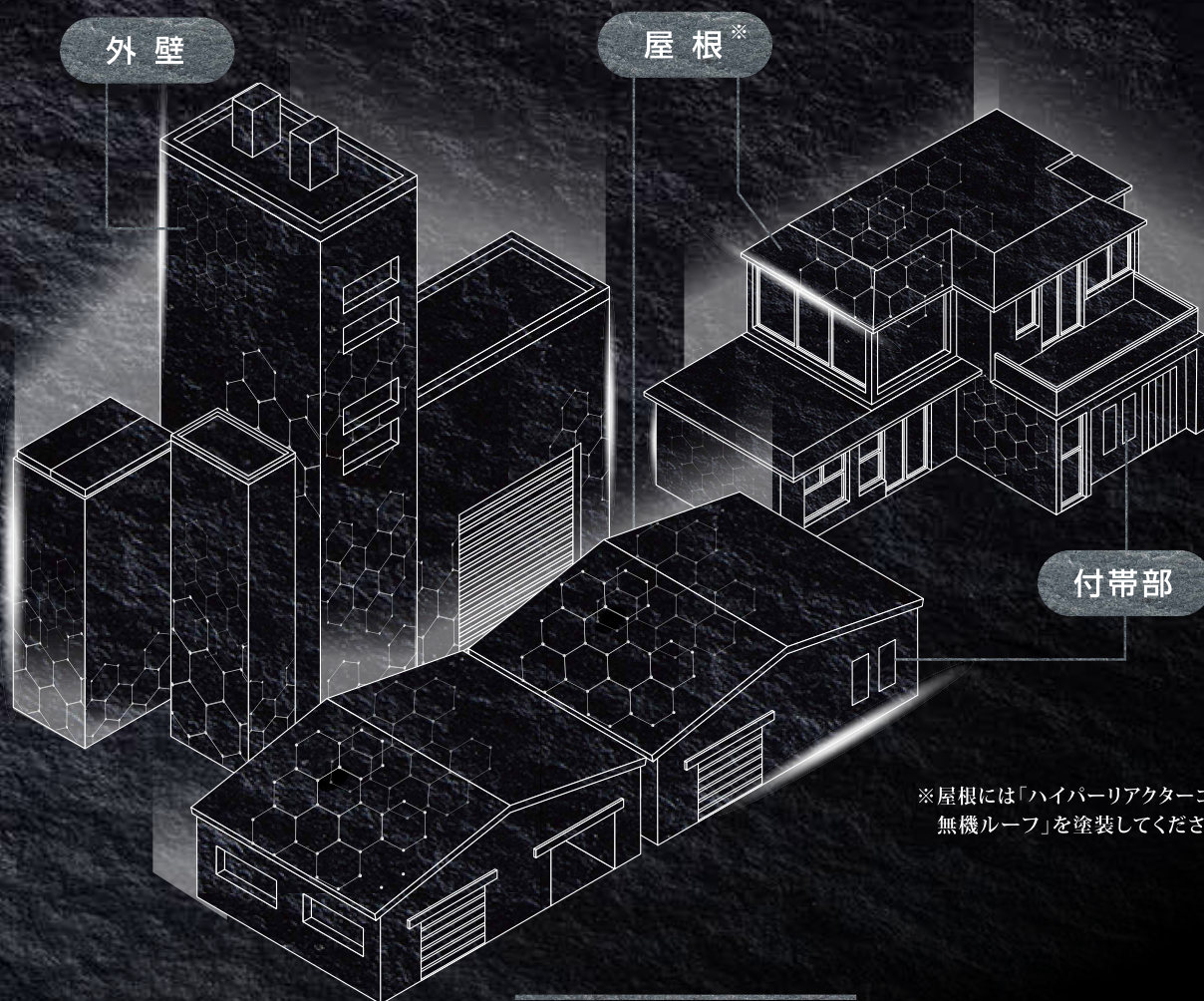
弾性硬化剤を設定



旧塗膜が弾性の場合でも
安心してご使用いただけます

※長期間ひび割れの抑制保証
するものではありません。

戸建住宅、集合住宅、工場等、 様々なシーンで建物を守る



※屋根には「ハイパーリアクターコート
無機ルーフ」を塗装してください。

適応下地

- 窯業系サイディング
- 金属サイディング
- コンクリート
- モルタル
- ALC
- 亜鉛メッキ
- アルミ
- 硬質塩ビ など

適応下塗り

- シーラー
 - ハイパーシーラーエポ
 - エポシーラーマルチ
 - ハイパーシーラーアクア
 - ロックカチオンシーラーマルチⅢ
- 下地調整材
 - ロックSBフィラー
 - ビニロックエラストックフィラーⅢ
- 錆止め
 - 2液型サビカット
 - サビカットⅡ
 - ハイプライマーアクア



【製品構成】

| 製品 | タイプ | 主剤 (品番・容量) | 低汚染硬化剤 / 弾性硬化剤 (品番・容量) | 配合比 (主：硬) | 可使用時間 (23℃) |
|-----------------------|-----------------|---------------------|--|--------------|----------------|
| ロック ハイパーリアクターコート無機 | 弱溶剤 2 液型 | 128-9000 13.5 kg | 128-0140 / 128-0120 1.5 kg / 1.5 kg | 9：1 | 7 時間 |
| ロック ハイパーリアクターコート無機ルーフ | 弱溶剤 2 液型 屋根用 | 128-9010 13.5 kg | 128-1140 1.5 kg | 9：1 | 7 時間 |

【標準塗装仕様】

1 コンクリート、モルタル、サイディングボードなどシーラーを使用した塗り替え

| 工程 | 使用塗料 | 希釈剤 | 塗装方法、希釈率 (%) | 塗装回数 | 標準塗付量 (kg / m ² ・回) | 塗り重ね可能時間 (23℃) |
|------------|--|---------|--------------------------------|------|-----------------------------------|-------------------|
| 下地調整 | 旧塗膜ではがれ部分、ふくれ部分などは皮スキ、ワイヤーブラシなどのケレン具を用いて完全に除去する。またエフロレッセンス、チョーキング部分、汚れなどは高圧洗浄などで除去し、乾燥した清浄な面とする。 | | | | | |
| 下塗り 注1) | 033 ラインハイパーシーラーエポ 配合比 (重量) 主剤：硬化剤=5：1 | 塗料用シンナー | ハケ・ローラー：0 エアレス：0 (通常不要) | 1 | 0.08 ~ 0.13 | 4 時間以上 7 日以内 |
| 上塗り | 128 ラインロックハイパーリアクターコート無機 配合比 (重量) 主剤：硬化剤=9：1 | 塗料用シンナー | ハケ・ローラー：5 ~ 15 エアレス：10 ~ 20 | 2 | 0.11 ~ 0.13 | 3 時間以上 7 日以内 |

2 鉄部、非鉄金属部の塗り替え

| 工程 | 使用塗料 | 希釈剤 | 塗装方法、希釈率 (%) | 塗装回数 | 標準塗付量 (kg / m ² ・回) | 塗り重ね可能時間 (23℃) |
|------|--|---------|--------------------------------|------|-----------------------------------|-------------------|
| 下地調整 | 旧塗膜ではがれかかった部分、ふくれ部分は皮スキ、ワイヤーブラシなどのケレン具で、浮き塗膜、さびなどは電動工具手工具で削りかすとともに完全に除去する。チョーキングした面、汚れ、じんあいなどはサンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清浄な面とする。 | | | | | |
| 下塗り | 061 ライン 2 液型サビカット 配合比 (重量) 主剤：硬化剤=9：1 | 塗料用シンナー | ハケ・ローラー：0 ~ 5 エアレス：5 ~ 10 | 1 | 0.13 ~ 0.15 | 4 時間以上 7 日以内 |
| 上塗り | 128 ラインロックハイパーリアクターコート無機 配合比 (重量) 主剤：硬化剤=9：1 | 塗料用シンナー | ハケ・ローラー：5 ~ 15 エアレス：10 ~ 20 | 2 | 0.11 ~ 0.13 | 3 時間以上 7 日以内 |

3 住宅用化粧スレート(新屋根材)、セメント瓦、スレート瓦などの塗り替え

| 工程 | 使用塗料 | 希釈剤 | 塗装方法、希釈率 (%) | 塗装回数 | 標準塗付量 (kg / m ² ・回) | 塗り重ね可能時間 (23℃) |
|------------|---|---------|--------------------------------|------|-----------------------------------|-------------------|
| 下地調整 | 高圧洗浄によりゴミ、汚れ、こけ、かびなども完全に除去する。高圧洗浄できない場合は、ホースで水を流しながらデッキブラシ・金属ワイヤーブラシなどで入念に除去する。旧塗膜ではがれ部分、ふくれ部分はケレン具を用いて完全に除去し、乾燥させて清浄な面とする。 | | | | | |
| 下塗り 注2) | 033 ラインハイパーシーラーエポ 配合比 (重量) 主剤：硬化剤=5：1 | 塗料用シンナー | ハケ・ローラー：0 エアレス：0 (通常不要) | 1 | 0.11 ~ 0.13 | 4 時間以上 7 日以内 |
| 上塗り | 128 ラインロックハイパーリアクターコート無機ルーフ 配合比 (重量) 主剤：硬化剤=9：1 | 塗料用シンナー | ハケ・ローラー：5 ~ 15 エアレス：10 ~ 20 | 2 | 0.11 ~ 0.13 | 3 時間以上 7 日以内 |

4 金属製屋根、トタン屋根など塗り替え

| 工程 | 使用塗料 | 希釈剤 | 塗装方法、希釈率 (%) | 塗装回数 | 標準塗付量 (kg / m ² ・回) | 塗り重ね可能時間 (23℃) |
|------|---|---------|--------------------------------|------|-----------------------------------|-------------------|
| 下地調整 | 旧塗膜ではがれかかった部分、ふくれ、さび発生部分などは電動工具を主体に皮スキ、金属ワイヤーブラシなどのケレン具で完全に除去する。チョーキングしたところ、ゴミ、汚れなどはサンドペーパーなどで除去した後、高圧洗浄を行い、乾燥させて清浄な面とする。 | | | | | |
| 下塗り | 061 ライン 2 液型サビカット 配合比 (重量) 主剤：硬化剤=9：1 | 塗料用シンナー | ハケ・ローラー：0 ~ 5 エアレス：5 ~ 10 | 1 | 0.13 ~ 0.15 | 4 時間以上 7 日以内 |
| 上塗り | 128 ラインロックハイパーリアクターコート無機ルーフ 配合比 (重量) 主剤：硬化剤=9：1 | 塗料用シンナー | ハケ・ローラー：5 ~ 15 エアレス：10 ~ 20 | 2 | 0.11 ~ 0.13 | 3 時間以上 7 日以内 |

注 1) 下塗りは下地の状況に応じて、ピニロックエラストックフィラーⅢ、ロック SB フィラーを使用した仕様もあります。

注 2) 下塗りはユメロックシーラーも使用できます。また軽度な不陸がある場合は、ロック水性プロテクトルーフ サフを使用してください。

◎ 夏場の高温時は硬化反応が著しく速まるため、塗り重ね間隔はあまり日数を置かず速やかに実施してください。

さらなる時代へ

ロックペイントは、気候変動問題への対策が重要且つ喫緊の課題であると認識し、温室効果ガス排出量を削減する目標を掲げ、これが国際的環境組織「SBTi」から日本の塗料メーカーでは初となる認定を受けました。当社は、これからも地球環境を守るため、温室効果ガスの削減活動を推進し、サステナブルな社会の実現に貢献します。



[詳しくはこちら >](#)

施工上の注意事項

- 塗る面のゴミ、かび、こけ、油分、枯葉などの汚れや、はがれかかった塗膜はよく取り除いてください。
- 気温が低いときや湿度が高い場合には、完全な塗膜ができにくく十分な性能を発揮できませんので、気温5℃以下、湿度85%以上での塗装は避けてください。
- 絶えず結露が発生するような場所、用途での使用は避けてください。
- 塗料全体をよくかき混ぜ、均一にすることで使用してください。
- 飛散防止のため必ず養生を行ってください。特に吹付け塗装の場合は注意してください。
- 補修部分が目立つことがありますので、補修塗りの場合は同一ロットの塗料を使用し、同一の塗装方法、希釈割合で行ってください。
- 塗装方法により多少色相が異なることがありますので、入り隅のハケ・ローラー境目はできるだけ奥までローラー塗装してください。
- ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により色相が異なって見えることがあります。
- 作業能率の低下および塗りムラの原因になるため、スプレーノズルの先端は時々洗浄してください。
- 希釈には必ず塗料用シンナーを使用してください。他種のシンナーを使用すると塗料中の樹脂が破壊されて使用できなくなります。また必要以上に希釈するとたれや色分かれの原因になります。
- つやの調整品は、被塗物の形状、状態、塗装膜厚や塗色などにより、実際のつやと少し違って見える場合があります。あらかじめ試し塗りを実施し確認してください。また塗り継ぎや補修の際につやむらが出やすいため、面を切って通して塗装してください。
- 硬化剤は必ず専用硬化剤を使用してください。他の硬化剤を使用すると仕上がり外観、塗膜性能に悪影響を及ぼします。
- 硬化剤を配合した塗料は、時間の経過と共に増粘・固化して使用できなくなります。配合した塗料は可使時間内（7時間 [23℃]）に使い切ってください。
- 夏場の高温時は硬化反応が著しく速まるため、塗り重ね間隔はあまり日数を置かず速やかに実施してください。上塗りとの付着性が低下します。
- 塗料液と硬化剤には、湿気と反応する成分が含まれています。貯蔵の際は密栓し冷暗所に保存してください。また、開栓後はできるだけ早めにご使用ください。水・アルコール系の溶剤の混入は絶対に避けてください。
- 硬化剤はイソシアネート化合物を含んでおり、スプレーダストを吸引すると鼻、のど、気管支などに障害を起こすおそれがありますので、換気を良くし、適切なマスクを着用して作業を行ってください。過去にアレルギー症状を経験している人は取扱わないでください。
- ロックハイパーリアクターコート無機の調色には必ず128ラインロックハイパーリアクターコート無機原色または、ロックトーンカララント3000（ベースの5%以内）を使用してください。
- つや調整品の場合、上塗り1回目の塗装はつや有りを塗装してください。
- 降雨、降雪、強風などの場合、または天候不良が予測されるときは外部の塗装を避けてください。
- シーリング材の上に塗装する場合、シーリング材の種類、劣化度により付着不良、収縮われなどを起こしたり、表面が汚れたりすることがあります。状況によっては、シーリング材用プライマー「ロックノンタックプライマーS」を塗装してください。塗膜の汚染・剥離・はがれ・割れの低減が図れますが、シーリング材の種類によっては汚れ、付着不良が発生する場合がありますので試し塗りすることをお奨めします。なお、ノンブリードタイプのシーリング材に「ロックノンタックプライマーS」は塗装しないでください。
- エマルションバテの外部での使用は避けてください。
- 外部の塗装について、塗料臭気が室内に入らないように換気装置などを停止し、開口部などの養生を行ってください。
- 塗装面の取り扱い等で可塑剤が多く含まれる建材（塩ビ鋼板、ラミネート鋼板、プラスチック、ゴムバックン、塩ビクロスなど）への直接の塗装は塗膜が軟化することがあり避けてください。また、これらの素材に塗膜が接触・付着しないように注意してください。
- 蓄熱されやすい建材（軽量モルタル、ALC、窯業系サイディング、その他の断熱性が付与された建材など）を使用した高断熱型住居の外装を塗装する場合、状況により蓄熱、水分、素地、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なることで、素地の変形、塗膜のふくれ、はがれなどが発生する場合があります。詳しくは最寄りの営業所にお問い合わせください。
- 笠木、天端など長時間水の滞留する箇所では塗膜の白化、ふくれなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。比較的緻密な素材である押出成形板やGRC板へ塗装する場合は、ユメロックシーラー、ハイパーシーラーエゴ、ハイパーシーラーアクアを下塗りとして使用してください。
- サイディングボード表面に反り、うねりが発生している場合は、ビスの増し打ちなど状況に応じた補修を行ってください。また補修が困難な場合はボードの張り替えを行ってください。
- フッ素コート処理をはじめ無機系や光触媒処理のサイディングボードには、ハイパーシーラーエゴ、ハイパーシーラーアクアを下塗りとして使用してください。
- 内部の塗り替えで旧塗膜が合成樹脂配合ベントやフタル酸樹脂エナメルなどの油性系の場合、ペーパーがけを行ってください。下地処理が不十分な場合、塗膜剥離になることがあります。
- 新しいコンクリート、モルタルなどのアルカリ質素材は、含水率10%以下、pH9.5以下になるまで十分に乾燥させてください。
- 屋外セメント系素地に段差・巣穴などがある場合は、セメントフィラーを用いて不陸調整を行ってください。
- ビニロックエラストックファイバーⅢを砂骨ローラーで塗装する場合には、最初に配り塗りをし、その後ならし塗りをし、塗り継ぎにむらが生じないようにしてください。
- 吸い込みの著しい部材については、標準塗分量より多くなる場合があります。シーラー塗装は「ぬれ感が出るまで」を目安に塗装してください。
- シーラー塗装後、塗装仕様の塗り重ね可能時間よりも早く上塗り塗装を行うと、ちぢみ、ひび割れ、塗膜不良を起こすおそれがありますので、塗り重ね可能時間は守ってください。
- 下塗り乾燥後、素地との付着性をガムテープなどで確認し、はがれが認められる場合は再度下塗り塗装を実施してください。
- サビについては完全に除去後、削りカス（サビ、鉄くず）を完全に除去してください。サビの発生の原因となります。
- トタンの折り曲げ部分、継ぎ目部分などは、膜厚が得られない場合がありますので、サビ止め塗料は先に拾い塗りすることをお奨めします。
- 亜鉛メッキ鋼板の目付量が多い場合には、3～4か月屋外放置しペーパー掛け後塗装してください。
- シーラー類や各種上塗り塗料には防錆性がありませんので、金属製の部分が錆びている場合、錆などを除去、ケレンし、適性のあるサビ止め塗料を下塗り後、上塗り塗装を実施してください。
- 溶接接合部や下塗りにキズがある場合は、その部分が塗膜不良となりやすいので、素地調整後、適性のあるサビ止め塗料で補修塗装を行ってから下塗り塗装してください。
- 素地が濡れている時は塗装を避け、乾いてから塗ってください。また、素地が直射日光などで極端に熱くなっている時は塗装を避け、少し冷えてから塗装してください。
- 乾燥過程で霜、夜露などの影響を受ける時間帯や、昼と夜の温度差が大きい時期は、結露による艶引け現象が起こる場合がありますため、時間を考慮して塗装を行ってください。
- 塗装時は、高い所から降り口を確保しながら塗装してください。塗らたての面は滑りやすいので絶対に乗らないでください。塗り残しがあった場合も乾燥後に補修塗りをしてください。
- 作業時の安全には十分注意し、高所で作業する場合は適切な安全対策を講じた上で行ってください。
- 新屋根材などで軽度の不陸がある場合は、下地調整材としてロック水性プロテクトルーフサフを使用してください。
- 無機系、フッ素系などで処理した住宅用化粧スレート（新屋根材）には、下塗りにハイパーシーラーエゴを塗装してください。
- セメント系瓦の場合、塗装後に水切り部で瓦の重なり合った部分に塗料が付着していると漏水の原因となります。必ず皮スキなどを使用し塗料の除去、縁切りを行ってください。
- 新屋根材の改修塗装で弱溶剤型のシーラーを使用した場合は、旧塗膜の種類によっては溶剤の影響により、ふくれ、ちぢみなどが発生することがありますので試し塗りをしたうえで本塗装を行ってください。
- 塗り替えした塗膜は以前の塗膜と比較して、光沢、平滑性が向上し一般的に滑りやすい傾向にあります。塗装後の屋根上での作業には十分に注意してください。
- 冬期においては、屋根上の雪が滑りやすくなることが想定されます。安全確認を行い、屋根に滑り止めなどの付帯設備を設置するなど対策をとることをお奨めします。
- 露出している瓦の素地が脆弱な場合は、剥離の原因となりますので塗装しないでください。（瓦の張り替えをお奨めします。）
- 陶器瓦、アスファルトシングル材には適していませんが、乾式コンクリート瓦（モニエル瓦、スカンジア瓦など）の塗装については最寄りの営業所にお尋ねください。
- 低時（10℃以下）の塗装では、硬化剤との反応が遅くなるため、硬化前の降雨、結露などにより塗膜不良を生じる場合があります。
- 木部塗装の際には、最寄りの営業所にお尋ねください。
- 塗装作業中および乾燥中は換気を十分行い、その後も塗膜が完全に乾くまでの間は、ときどき換気を行ってください。
- 塗色が濃色の場合、塗膜を強くこすると色落ちすることがありますので注意してください。
- 改修塗装の場合、素地の種類や下地処理方法によって塗膜不良となる事があります。あらかじめ適切な処理を行い試し塗りすることをお奨めします。
- 改修塗装の場合、脆弱な旧塗膜、汚れ、チョーキングなどはディスクサンダー、皮スキ、ワイヤブラシなどで除去し、高圧洗浄を行った後、24時間以上乾燥させてください。（気温23℃、湿度65%の場合）
- 旧塗膜が弾性系の塗膜（弾性リシン、弾性スタッコ）やアクリル樹脂エナメルなどの場合、すでにふくれが発生していることがあります。そのまま塗装するとふくれが拡大することがありますので、ふくれ箇所は完全に除去してください。
- 仕様書の数値は標準的な塗装を行う際のもので、標準塗分量は塗装時のロスを考慮に入れた数値です。素地の状態、気象条件、塗装方法などによって異なる場合があります。
- 塗り重ね可能時間（乾燥時間）は塗装現場の温度、湿度、風通し、素地の状態などにより、多少変わります。
- 各工程の塗装間隔や塗分量、希釈量を守らなかった場合塗膜不良となる事があります。また、各工程において当社指定以外の材料を使用した場合は十分な性能が得られないことがあります。
- カタログに記載されていない素地及び塗装方法、工程で施工する場合、塗膜欠陥を起こすことがありますので、使用する前に最寄りの営業所へお問い合わせください。
- ロックハイパーリアクターコート無機はホルムアルデヒド放散等級F☆☆☆☆タイプです。F☆☆☆☆以外の材料（被塗物、素地を含む）を使用したり、各工程の塗装間隔や塗分量、希釈量を守らなかった場合、F☆☆☆☆でなくることがありますので注意してください。
- 上塗りに鮮やかなエロー系、レッド系、ブルー系、グリーン系の塗色で仕上げる場合、塗膜の隠ぺい性が弱い傾向にあるため、先に隠蔽性のよい共色（近似色）で下塗りした後、上塗り塗装してください。
- 低汚染性については被塗物の種類や建物の形状により、また、施工後特に塗膜が十分に乾燥する前、もしくは乾燥後の初期の段階で天候不良であった場合、その効果が十分に発揮されない場合があります。
- 防藻・防カビ効果は繁殖を抑制するため、既に発生している被塗面には、下地処理として除去および防藻・防カビ処理剤などで殺菌処理した後、塗装してください。
- 暗所で長期間塗膜を乾燥させると黄変する場合がありますが、塗膜物性に影響はありません。
- このカタログに記載されている下塗り塗料などの詳細な使用方法については、それぞれのカタログをご参照ください。
- 取扱いの際は製品容器の注意書き、製品カタログおよび安全データシート（SDS）をよく読み、注意事項を厳守してください。

安全衛生上及び取扱い上の注意

【製品の危険・有害性】

- 引火性の液体である。
- 溶剤蒸気を吸入すると有機溶剤中毒になる恐れがある。
- 目、皮膚、粘膜等に対し刺激性がある。

【救急処置】

- 目に入った場合は直ちに多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合は、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 蒸気・ガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けてください。
- 皮膚に付着した場合には、多量の石鹸水で洗い落とし、痛みまたは外観に変化のあるときは医師の診察を受けてください。

【取扱い注意事項】

- 取扱いは引火源のないところで行い、特に静電気が発生するような衣服、取扱いは避けてください。
- 取扱い作業所には、局所排気装置を設け、塗装時及び乾燥時には十分換気を行ってください。

- 溶剤蒸気やスプレードストを吸引しないように、必要に応じて有機ガス用防毒マスクまたは送気マスクなどの適切な保護具を着用してください。
- できるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて保護めがね、保護手袋（耐溶剤性）、長袖作業着等を着用してください。
- 取扱い後は手洗い及びうがいを十分に行い、作業着等に付着した汚れをよく落としてください。
- よくふたをして直射日光を避け40℃以下の安全でかつ子どもの手の届かない一定の場所に保管してください。
- 容器は中身を使い切ってから廃棄してください。
- 指定された以外の製品と混合しないでください。
- 廃棄の際は関係法規に従って産業廃棄物処理業者に委託し処理してください。
- 火災時には炭酸ガス、泡または粉末消火器を用いてください。

【施工後の安全性について】

- 本製品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引き渡しの際は、施主に対して安全性に十分に注意を払うようにご指導ください。
- 不特定多数の方が利用する施設を施工した場合は、ペンキ塗りたてであるなどの立看板を設置し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接することのないようにご配慮願います。

安全データシート(SDS)をよく読んでから取り扱ってください。

ロックペイント 株式会社

東京営業部 / 〒136-0076 / 東京都江東区南砂2丁目37番2号 ☎(03)3640-6000 FAX (03)3640-9000
大阪営業部 / 〒555-0033 / 大阪市西淀川区姫島3丁目1番47号 ☎(06)6473-1650 FAX (06)6473-1000
札幌営業所 / 〒003-0011 / 札幌市白石区中央一条4丁目3番48号 ☎(011)812-2761 FAX (011)812-9304
仙台営業所 / 〒983-0044 / 仙台市宮城野区宮千代2丁目3番11号遠正ビル201号室 ☎(022)349-8677 FAX (022)283-3255
西関東営業所 / 〒252-0131 / 神奈川県相模原市緑区西橋本1丁目15番16号 ☎(042)700-3111 FAX (042)700-3112
名古屋営業所 / 〒454-0059 / 名古屋市中川区福川町1丁目1番地 ☎(052)351-6500 FAX (052)361-7433
岡山営業所 / 〒701-1134 / 岡山市北区三和1000番34 ☎(086)294-1201 FAX (086)294-6966
福岡営業所 / 〒811-0119 / 福岡県糟屋郡新宮町緑ヶ浜3丁目2番1号 ☎(092)962-0661 FAX (092)963-1241

- 本カタログの内容については、予告無しに変更する場合がありますのであらかじめご了承ください。また記載内容について、法律で認められる範囲を超えての転載・複製を禁止します。



スマートフォン等で読み取っていただくと
ロックペイント(株)のHPをご覧いただけます。
<https://www.rockpaint.co.jp>

販売店：